

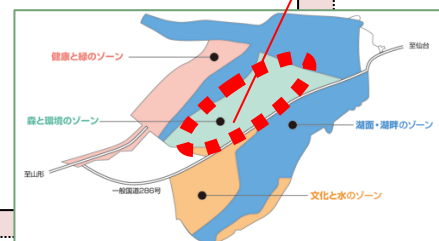
# みちのく森の楽校だより 10月号



## みちのく公園「里山地区」とは？

みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



## 10月22日（土）晴れ ドングリの苗を植えました！

少しずつ涼しさが増し、秋が深くなってきましたね。小野分校脇の畑では、今年はキュウリが次々となりましたが、それもそろそろ終わり、最後のキュウリを収穫しました。里山の秋の恵みとして、むかごを収穫して、飯盒のむかごご飯を楽しみました。ゴヨの森には、2年間育てたドングリの苗を植え付けました。

### むかごの収穫

ころころとかわいい「むかご」は、山芋の葉の付け根にできる球芽です。いわば山芋のあかちゃん。

通常、山芋は地中に伸びて育っていく作物です。その時地上部分にはよきよきと蔓が伸びていくのです。蔓は枝分かれて、たくさんの葉を付けます。その枝分かれる部分にできるのが「むかご」です。

「むかご」の栄養は山芋とほぼ同じで、実は山芋よりも高い栄養価を持っていたりもするのです。

今日は里山の「むかご」を収穫しました。



### 野菜の収穫

今年の最後のキュウリを収穫しました。ずいぶん楽しむことができましたね。

秋野菜として育てている山東菜の間引き菜も収穫しました。



### 飯盒炊飯

今日は、むかごご飯の飯盒炊飯をしました。火起こしは前の月にもやったので、おさらいです。

杉葉集め、薪割りと手順はわかっています。ふんわり丸めた新聞紙、杉の葉、粗朶を井桁に積んで火を付けて、ご飯焚きをしました。

調理もお手伝い。菊の花取り、野菜切り、火の番です。



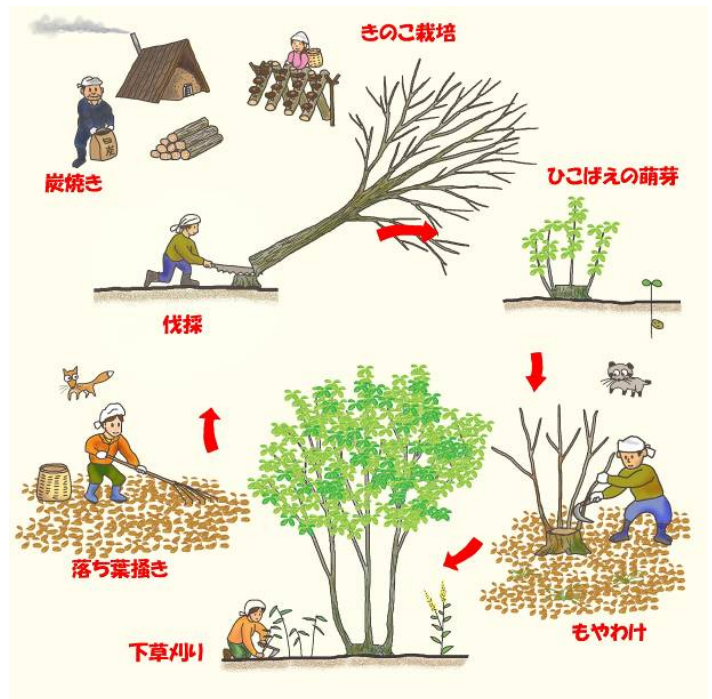
## 皆伐更新

かつての里山では、薪や下草が採取されて、明るく若い林が維持されてきました。薪や下草は燃料として、暮らしの中で毎日使われていたのです。

伐採した切り株からは「ひこばえ」が生え、新しい若い幹が再生していました。里山の林を新しい林に再生させるために木を伐採することを「皆伐更新」といいます。「皆伐更新」によって、健全な雑木林が維持されていたのです。

近代化とともに薪や炭の利用が無くなると、雑木林は管理されなくなりました。その結果、樹木は大きく育ち、ササや蔓が繁茂するような暗い雑木林に変化しました。

かつての健全な雑木林を再生するため、里山地区の「ゴヨの森」では「皆伐更新」を進めています。



## ドングリの苗の植え付け

里山地区の「ゴヨの森」ではこの「皆伐更新」を行って、昔ながらの里山管理をしています。

直径が 30cm のコナラの萌芽更新は困難というのが専門家の意見です。木が大きくなりすぎてしまい、木を切っても「ひこばえ」が育たなくなったのです。そのため、萌芽更新だけを考えているのではなく、同時に実生を育てることが大切です。

そこで、里山地区では4年前から、ドングリの苗を育てて、里山に植え付ける「ドングリの里山」という活動をしています。2016年、2017年とこれまでに2回の苗づくりと苗の植え付けをしました。

「ゴヨの森」の「ゴヨ」とは、ひこばえのこと、この地方のお国ことばです。

「ゴヨの森」の前には、この事業についての説明サインがあります。



今日、植え付けた苗は2016年のドングリを育てたもの。

2年前に皆伐した明るい斜面に植え付けました。斜面が急で、楽な作業ではありませんでした！



ドングリ苗



苗の植え付け

## ドングリの苗づくり

秋になってドングリが落ちてきたので、これを拾って苗を育てています。

今年の里山では、ドングリが少なく、あまり拾うことができない

ため、2年後には植える苗が足りない！なんてことになりそうで心配です。だからといって、別な場所のドングリでは意味がないのです。



今年のドングリの苗